

桑名文化協

令和5年3月15日

第53号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361
<https://bunkyo-kuwana.jp>

新春六華苑祭

新春を雅びて
特別な舞台を終えて

芸能I部門 河合咲暉子

(琴きらら桑名高等学校邦楽部)

一月二十二日、六華苑の和館にてお琴の演奏をさせていただきました。一年生にとっては初めての校外イベントとして、歴史ある六華苑での演奏をとて楽しみました。感染症が心配される



中ではありましたが、日々の練習の成果と師範の堀先生への感謝の思い、そして一年生と二年生がそろって演奏する最後の

機会を特別なものにしたという思いでこの日に向けて練習してきました。

今回は曲調の明るい「群青」と、誰もが一度はきいたことがあって口ずさみやすい「となりのトトロ」を選曲し、お琴に触れる機会のない人にも楽しく、心を和ませる音色を目標にしてみました。全員がそろって練習する機会が少ないうえに、部員それぞれが努力し当日に臨むことができました。また、当日はお琴を演奏する他の団体の方たちの音色を聴き、たくさん刺激をいただくことができました。まだまだ技術の足りない私達ですがこの先もっとより良くなることを目指し、自分たちらしく楽しく活動していきます。

最後になりましたが、今回の演奏にあたりお世話になった皆さん、館内スタッフの皆さん、桑名市文化協会の皆さんに感謝申し上げます。

音楽の祭典

成功の鍵は事前準備にあり

音楽部門 豊田憲生

(桑名マンドリン倶楽部)

本年も新春六華苑祭が開催されましたこと、心よりお慶び申し上げます。また本年もお招き頂き誠に有難うございました。

前日は1年で最も寒い時期にあたる「大寒」で、当日朝も寒さが身にこたえました。我々の様な楽器弾きにとって「寒さ」は大敵で、どうしても手・指が冷たくなると、思う様にフレットを押さえる事、音符通りに指を早く動かす事ができません。その為、納得のいく演奏をして聴衆の皆様に喜んで頂ける様にと、朝早くに集まり「ウォーミングアップ」を施し本番に臨みました。

開演時には沢山の方々が足を運んで下さり、洋館に響き渡るマンドリンの音色、それにマッチした曲想も相まって、奏者の我々もとても優雅な気持ちで上手く奏でる事ができ、事前の準備が功を奏した結果となりました。

私共、桑名マンドリン倶楽部は令和3年(2021年)に創立100周年を迎えました。本来であればその年に記念演奏会を開催する



予定でしたが、折しもコロナの蔓延で延期を余儀なくされ、2年の充電期間を経てようやく本年5月28日(日)に柿安シテイホール(桑名市民会館)にて開催する運びとなりました。現在、その時に向け部員一同鋭意練習に励んでいます。

今回は当クラブの歴史を振り返る選曲となっており、100年前に開催された演奏会での曲も数曲演奏いたします。日曜午後のひとときを、昔も今も変わらぬマンドリンの音色をご堪能頂ければと思います。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

市民芸術文化祭を終えて

版画制作と美術部門展

美術部門 早川里美

(個人会員)

今年度も版画のシルクスクリーン作品を出品しました。

版画は、公募展などでは、絵画部門に含まれる展示を多くみえますが、絵画とは異なる表現活動です。「版」を制作することにより、複数性が生まれ、ポスターや年賀状などのポストカード、Tシャツ、トレーナー等の衣服にプリントが可能な特性を持っています。また版画は、同じ作品でも版の色を変えたり、組み合わせて変化させることにより全く別物の作品になることがあります。



制作途中の作品を残しておけば、出来上がった本作品と並べて後で見直し考慮する資料にもなりません。洋画、日本画では考えられない特性ですね。正方形の作品を多く作る私は、上下左右を、版を置く方向を間違えて刷ると、頭の中で構想した緻密で幾何学的な作品が、偶然性を伴って味わい深い面白い一点を生むこともあります。

ただ、版画は、小・中・高等教育の美術教育で扱うことが少なく、一般的に馴染みがうすいのか、あまり普及されていないのが現状のようにおもわれます。また、プレス機、バレン、版材、彫刻刀などの道具類が必要で、準備と片付けに時間がかかるなどの難点を指摘されたりしますが、是非是非、簡単に安価にできる版画もあり、もっともっと版画を楽しむ人が増えることを願っています。

この桑名市でアートワールドに身を置く方が、アカデミックな技量の有無に関係なく、一年の集大成の発表の場として市民芸術文化祭に出品されるのは、いかがでしょう。

美の追求が、日常生活の一端になって、心からの制作欲で生まれる作品を楽しみにしています。

大人も子どもも百人一首かるたに挑戦！

趣味教養部門 加藤 誠

(三重県かるた協会桑名若菜会)

昨年十一月二十七日(日)、桑名市パブリックセンター日本間で恒例の「小倉百人一首初心者かるた取り大会」を開催しました。応募者がほぼ埋まる二十人(十チーム)の参加を得ました。

コロナ禍での大会ですので文化協会さんの指導とかるた界の全国組織で定めたガイドラインに従った感染対策をしつかり実施しました。検温・部屋の換気を行い、参加者と同伴のご家族には不織布マスク着用、試合毎の手指消毒、大声での会話自粛を開会式と試合の合間に繰り返しお願いをしました。

さて、この大会は多くの方に百人一首に親しみ、気軽にかかるた取りを楽しんでもらおうとの思いから開催しているものです。

試合は二人一組のチーム対抗で行い、お友達・親子等が助け合いながら試合を進めます。最初は札を取る都度歓声飛び交うなど和やかな雰囲気でしたが、次第に札が読まれる前の一瞬は会場が静まり返り、真剣に札を取りあうよう



になりました。

そうして二試合、約二時間が過ぎ競技終了となります。二試合の取札の合計枚数で順位を決め、十チーム二十人全員に賞状と副賞を授与しました。

多くのお子さまは賞状を手にするのと、ニコッと笑顔になります。また順位にかかわらず、子どもも大人もいい時間を過ごした、と満足そうな表情をしていました。この笑顔・表情を目にし、ああ今回もこの大会を開催してよかったなと思いました。

みなさんも来年はぜひこの大会に挑戦してみてください。

令和5年度 月釜日程表

開催時間 月 釜 午前10時～正午、午後1時～午後3時30分
開催場所 六華苑 和館一の間
呈茶券 前売券 1,000円

当日券 700円
六華苑入苑料込・茶道各流派師範宅・六華苑で販売
(六華苑入苑料別)

(入苑料：高校生以上460円、中学生150円)

◆新型コロナウイルス感染症拡大等、状況によっては、変更・中止になることがあります。

最新の情報は、桑名市文化協会ホームページをご確認ください。

◆参加の際は、感染防止対策へのご協力をお願いします。

◆体調のすぐれない方は参加をお控えください。

◆4月15日(土)は「県民の日」記念事業にあわせ入苑料は無料、

呈茶券は700円(六華苑での前売券販売なし)

◆お問合せ 桑名市文化協会事務局

(桑名市ブランド推進課内 TEL 0594・24・1361)

開催日	担当流派
令和5年 4月15日(土)	表千家流
5月21日(日)	茶道裏千家
6月18日(日)	遠州流茶道
10月15日(日)	茶道裏千家
令和6年 1月21日(日)	煎茶松風流
3月17日(日)	表千家流

お問い合わせ

桑名市文化協会事務局
(桑名市ブランド推進課内)
TEL 0594-24-1361
ホームページ
<https://bunkyo-kuwana.jp>



令和5年度 桑名市文化協会 育成補助金募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して、補助金を交付します。令和5年度の育成補助金を申請される方を募集いたします。

○補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、令和5年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で、令和3年度・令和4年度に補助を受けていない会員。

○補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

○応募の方法

文化協会事務局から送付された申請書に記入し、同事務局へ提出申請する。書式は文化協会ホームページよりダウンロードすることできる。

○応募受付期間

令和5年3月1日(水)～
令和5年3月31日(金)
(令和5年4月1日～令和6年3月31日までの実施事業に限る)

※令和2年度募集より桑名市文化協会育成補助金要綱を、令和3年度より運用規定・Q&Aを改定しました。

おしらせ

桑名市民芸術文化祭社会文化部門展で多くご要望頂きました展示資料(八間通桑名市電、北勢鉄道京橋線)の縮写版冊子(A4判16頁)を作成しました。ご希望の方に文化協会事務局(桑名市ブランド推進課)または、きいろいおうち(新地)で配布します。(先着順となり次第終了)



第31回 定期総会のご案内

〔日時〕 令和5年5月14日(日)

午前10時30分から

(受付は午前10時から)

〔会場〕 桑名市パブリックセンター 大研修室

*各部門から代議員の選出をしていただきます。

令和4年度

新入会員の紹介 (敬称略)

(3月1日現在までに入会の会員)

音楽部門 なばなコミュニケーション

美術部門 アンサンブル

美術部門 エチユード

美術部門 書を愉しむ会

文化協会へ新入会員 大歓迎♪

文化活動を行っている団体さん、個人の方、文化事業に興味のある方、一緒に桑名市の文化芸術活動を盛り上げていきませんか？
お問い合わせはお気軽に♪

桑名市文化協会設立30周年

30周年を迎えて

桑名市文化協会 会長



荒木敏文

平成5年6月27日桑名市役所5階会議室に於て、300名余の会員の参加のもと設立総会が開催され、規約、協会役員、事業内容、予算の承認を得て、初代会長の佐藤勤三氏のもと桑名市文化協会は活動を開始しました。そして、平成6年5月15日に当時の中央公民館で開催されました総会資料によりますと、団体会員95団体、個人会員64名、会員総数4036名、特別会員56団体となり、予算決算額は730万円余となっております。

現在の会員数は1400名余となっております。会員の減少はコロナにより会員活動が制限された影響と会員の高齢化によるものと思われる。文化活動は人との交わりを行うことにより、認知症を防止し、健康寿命を延ばす大きな手段であると思います。是非とも文化協会に参加をお願いします。

なお、私事ではありますが、発足当時は、広報委員として参画し、



令和4年度第30回定期総会

平成8年度から芸能I部門の理事として携わり、長年、多くの人と楽しい時間を過ごさせて頂き感謝申し上げます。

さて、今年の9月9日〜10日に柿安シティホールにおいて、30周年記念事業を「未来へつなごう！桑名の文化」をテーマに展示部門舞台部門の日頃の成果を発表します。現在は市民の皆様楽しんで頂ける内容を検討し、意義のある記念事業になるよう鋭意努力しているところであります。

結びに、この文化協会は、多くの先人たちが築いた桑名の文化の要であります。今後も、50周年を目指して、桑名市の支援のもと、会員の皆様、市民の皆様とともに文化活動を推進してまいります。

30年間をふり返って

桑名市文化協会 副会長



森 一蔵

平成5年（1993）設立した桑名市文化協会が令和5年（2023）で30年目を迎えます。設立と同時に入会した私は歴代会長のもと平成15年（2003）から副会長の一員として今日迄務めさせて頂きました。どの会長も私事の時間を割いて協会一筋に尽くされる姿は側で見ていて頭の下がる思いです。

平成20年（2008）15周年第3回記念事業の責任者として作家の童門冬二氏の「松平定永と天保以降の桑名の文化」と題する文化講演会を開催いたしましたところ、各方面の御協力の賜物で、無事終了させて頂きましたことは私の心に大きな思い出として残っております。

今、新型コロナウイルスの時代になって、今迄の様な各団体の活動が制約されるのは、文化芸術活動にとつて大いに痛手であることは間違いありません。会場の都合等で開催されない新春懇親会は、各団体個人の横の交流を拡げる意味から云って残念なことです。ウクライナの現状と比べるとまだまだ恵まれています。この様な世情だからこそ文化芸術は絶対に今必要だとつくづく思いますし強く主張したいです。

桑名文協と歩んだ十年

桑名市文化協会 副会長



丹羽宗俊

副会長三年目から広報委員として「桑名文協」に携わってきました。二人の副会長、十部門からの委員、事務局とで34号から53号まで発行してきました。どれも思い出深いものですが、特に心に残るのは、令和3年9月15日発行の「桑名文協創刊50号記念号」です。

コロナ禍の中で文化の持つ「心の豊かさ」を守り、心の渇きを癒す文化の灯を未来につなげていく発表の場、各部門助け合っていく場、楽しみ合える場となる広報紙であり続けたいとの思いは、今もこれからも変わりません。本紙へのご支援、ご協力ありがとうございました。

―二十周年余滴― 柏崎市との交流

両市の文化協会交流会場は、大きな一枚ガラスの窓の向こうに暗緑色の日本海、大きな赤い夕陽がドブーンと吸い込まれていきました。今まで見たことのない夕陽。

懇親会で同席、意気投合した人と越後路と伊勢路の交流が始まりました。コロナになつて、跡絶えしました。送ったかった※「桑・柏日記抄」を開いて読んでいます。

十年に一度とかの寒波の便り、雪深い越後路を思い、心痛みます。

※「桑・柏日記抄」堀田吉雄編著

一月二十四日記

（伊勢民俗学会刊 昭和44年12月10日刊）

桑名の文化を盛り上げたい。会員ひとりひとりが主役です！

文協文芸

「文学部門」

詩 〈現代詩やまぶき〉

幕 岡本妙子

たずねたいことがある
いつ終わりますかこの物語り
八十二年は長かったけど
・・・けど、短かった

いくつかの山坂を登り下り
ふり返ると
大した山ではなかったが
道中でめぐり逢えた人が
とてもよかった

ふりむくと空をかりが鳴いて
里に帰ってゆく
はぐれ鳥が一羽
あれは、
きつと私じゃないか



各駅電車の止まる町で

堀川孝子

——あそこが松ヶ崎の駅
がらんとした屋根を指して
途中まで送ってくれた従妹は
おぼつかない足取りで戻って行っ
た

焦げ付いた鍋が流しに投げ込まれ
たまま
食器を洗うことが出来ない台所で
久しぶりに会った従妹は言葉少な
だった
二人の息子が巣立った後
夫を亡くし
草ぼうぼうの中で暮らしていた

終戦の日に生まれた従妹
あの日も蝉たちは鳴いていた
動転する人々の傍で咲いていた向
日葵の花
赤子に降り注いでいた混沌とした
光

薄い水団をすすっていた日々
姉妹のように遊んだ
春には土筆や蕨を秋には栗の実や
茸を
胸を広げて待っていてくれた山が
あった



みんないなくなつたふる里
顔ぶれの替わつた故郷を抱いて
あの頃と変わらぬ山並みがある
特急電車にのけぞり
何度も急行が走り抜けて行つた
静かに入つて来た車両が
大きく体を揺らして止まつた
くもつた車窓を
今にも降り出しそうな雲が流れる
はらはらと舞い散る黄色い花びら
荒野に従妹を残したまま
私は中川駅で急行電車に乗り換え
た

ゲッセマネの園

安田治三

深夜の雨は
屋根をたたき瓦を滑りながら
今日でもなく明日でもない時間に
下へ下へと水音をたてて落ちてゆく

時間の継ぎ目のような空間は
私の存在すら疑わしく
今日と明日の狭間にふんわりと
羽毛のように漂っている

やがて雨が止んで
幽玄の世界に蒼色の月が
辺りを照らす

今日と明日の狭間にゆらゆらと
神との吊り橋が揺れている
罪深い愚人には想像しかできない
ゲッセマネの園

紫の夜明けが近づいて
月も吊り橋も消えてゆく
眠らなければならぬ自分に
ひたひたと明日がやってくる

俳句 〈俳句を学ぶ会〉

秋、冬 竹村一雄

二年前にいま流行りのアサギマダラを呼ぼうとフジバカマ畑を作り、百株ほど植えた。昨年の十月上旬、待望の訪問があった。

藤袴浅葱あさぎの衣の舞う夢を



昨年末から柴犬の子どもを時々預かることになり、サークルをセツトし、朝ご飯を準備して待つ。まだ生まれて三か月、冬の寒さはかわいそうでつい抱き上げるとそのまま眠ることも。

木枯らしに子犬の午睡耳ピクリ

正月、日の出前に起きたらなにやら外が明るい。「あさばらけ有明の月と見るまでに・」を思い出し雪かなと窓を開けてみると、半月が煌々と景色を照らしていた。ここでパロディ(本歌取り?)。

下弦月有明の雪と見るまでに

春夏秋冬

安田治三

鐘霞むごおんごおんと古都の路
枕もと窓にさえずる鶯や

山笑う麓に学ぶ一年生

水温む小川の土手にたんぽぽや
じつと見る桜の枝に新芽かな

風鈴の音いろかろやか濡れ縁に
筈を山ほど背負い獣道

夕立に敷石濡れて庭眩し

岡崎城くちなしの花香る庭

山里に蝉鳴きくらべ宝林寺

月光是褥に射して夢枕

月明り夜道横切る狸かな

十五夜蒼く白くに辺り染め

地藏盆御前通り浴衣の娘

熟れ柿は吾の物だとはぐれ猿

我が庭に積れる枯葉命惜し

友は逝く言葉交わさず師走の空

縁側に猫まどろんで日向ぼこ

雪降れと誰が言うのか北国に

日曜の寒さにいじけ炬燵かな

短歌

三四郎の遠吠え②

短歌物語

伊藤智之

(個人会員)

私は三四郎。と言っても柔道の強い三四郎でもない。勿論、漱石の「三四郎」でもない。競馬好きな飼主のパパが、たまたま当たった馬券の3番4番6番の語呂合わせで名付けられた柴犬だ。趣味はパパの影響を受けて短歌を嗜む。犬が短歌を詠むとはと、疑問に思う人もいるが、短歌は私的な世界だからいいのでは。

パパは、私との散歩の途中での歌作が多く、呟きみたいなものを帰ると、パソコンに詰めて纏めようとしているが、なかなか形にならない。

私は筆記具は持たないので、その場でとりあえず完成させ頭に納め後日歌会などで推敲している。歌会のメンバーは、私と物知りの隣の猫のみいちゃんを中心である。

今日はパパとママがゲートボールにお出掛けなので、みいちゃんの都合を聞き、歌会を開いた。犬や猫の短歌に興味のある人間もあると思うので、今回は公開にした。犬や猫の感性をわかって頂け

ると嬉しい。

①空吠えの専守防衛に励みても餌を守れずカラスどもより

☆みいちゃん 専守防衛という言葉葉を軽く使いすぎて良くないわ。

★三四郎 犬の自分を詠むことで人間社会を斜めに切ったつもり。☆みいちゃん 川柳ではないの。

②人間の犯した罪の多いこと生き物すべて絶滅危惧種

☆みいちゃん 本当にそうね。生き物の共有のものであるべき地球が、人間の欲により破壊されてゆく。人間は恐ろしくないのだからか。そういえば、パパの歌に次の歌があったね。

○四角でも三角でもいい地球というひとつの塊が平和であれば★三四郎 パパの自慢の歌だね。これも人間の勝手な論で、人間さえ平和であれば良いのか。

③飼主は犬に向かいて人間の弱さ呟く新聞丸め

☆みいちゃん 人間社会は、事件や事故の多いこと。それを人間の弱さが原因とパパが口癖なのね。

★三四郎 パパは、問題が起きると人間の弱さで片づける。逃げの一手であり、そんなパパも弱い人間の一人である。頑張れパパ。曇ってきたので、閉会。

桑名地名あれこれ(28)

桑名地名あれこれ(28)

社会文化部門
(個人会員)
大河内 浩

大化改新そして律令制で定められた公地公民制は平安・鎌倉時代の頃になると次第に崩れ、私的な所有地・荘園が成立し始めました。このあたりでも本シリーズ(24)で触れた古代桑名郡五郷は崩れ、香取荘(現・深谷地区・多度町東部)や間木荘(多度町西南部)そして益田荘が現れました。鎌倉時代後期に成立した鎌倉幕府編纂の公的史書吾妻鏡(東鑑)にも、伊勢国香取荘や益田荘が出てきます。中でも益田荘は現在の桑名市街から城東・城南・益世・桑部・在良地区、員弁郡星川あたりに亘り、後には香取荘や間木荘も含まれて広大な一帯でした。桑名藩土江間政発が明治初期に著した桑名郡志にも「中世以来称スル所ノ庄名本郡二三アリ、香取庄間木庄ハ古書ニソノ名見ユルモ後ニ全テ益田庄ニ」とあります。そしてその中に旧来の制度にない自然発生的な在善郷・神戸郷・深江郷などが現れ、豊臣秀吉の太閤検地(一五三八〜九八)まで続きました。本篇(26)の在善郷は額田・増田と言われ「ますだ」の名を今に伝えます。

明治二十二年の近代市町村制で江場や矢田など六村が合併、この益田荘から採って益田村とする案も出しましたが、近隣にある増田と同音のため、益々生するようにと益生村の名になりました。

益田の名を伝える所は、太夫の増田神社(益田神社)もあります。延喜式内立坂神社とゆかりの神明宮のひとつで、獅子舞を奉納する職業集団の邸内私設神社ですが、毎年十二月二十四日に国指定文化財の伊勢太神楽が演舞されます。



益田庄桑名三崎図 久波奈名所図会上巻(自凝洲崎)挿画を加工

ご賛助いただいております
特別会員の皆様
3月1日現在
(五十音順)

アートスペース美園様
医療法人桑名病院様
医療法人誠会山崎病院様
魚重様
お菓子処「和」様
カネソウ株式会社様
株式会社朝日精工様
株式会社歌行燈様
株式会社グラビ園様
株式会社山本園様
株式会社18bancho様
株式会社水谷精機工作所様
株式会社レイ・ステージ桑名様
木村洋子様
桑名シティホテル様
桑名三重信用金庫様
在日本大韓民国三重大阪支店様
中央不動産株式会社様
花月様
花江場中店様
花乃株式会社様
光精工株式会社様
ヒルカワ金属株式会社様
三重精機株式会社様
森田フードシステム株式会社様
有限会社茶茂様
有限会社丁子屋様

日頃のご協力に對しまして、
深くお礼申し上げます。

編集後記

私たちのバレー教室は、2年前文化協会に入会させていただきまし
た。入会前のコロナ禍での発表会開
催は、悩むことが多くとても大変で
した。文化協会に入会後は、事務局
の方や先輩方と協力し、支え合いな
がら文化祭に向けて進んでいきま
す。とても心強く、安心感をいただ
いています。また「桑名文協」で
は、文化活動のジャンルを超えて、
皆さんの活動を知ることができ、励
みになっています。

文化協会は、今年で30周年。30年
という歴史に先輩方のご苦労や熱い
思いが詰まっています。素晴らしい団
結力を感じています。まだ入会して
日が浅いですが、文化協会に携わら
せていただけることに感謝し、桑名
に文化を広げる活動に少しでもお役
に立てたら幸いです。

9月9日(土)、10日(日)には、30
周年記念事業が開催されます。たく
さんの方に楽しんでいただけるよう
う、皆様のお越しを心よりお待ちし
ております。
(堀田佳世子)

広報担当副会長
広報担当副会長
委員 文学部門
美術部門
音楽部門
芸能I部門
芸能II部門
芸能III部門
演劇部門
茶華香道部門
社会文化部門
趣味教養部門

丹羽 宗俊
安田 治三
竹村 一雄
加藤由貴子
近藤 ナオ
杉野さおり
谷口 泰江
堀田佳世子
相原 千景
小川 与松
大河内 浩
加藤 誠